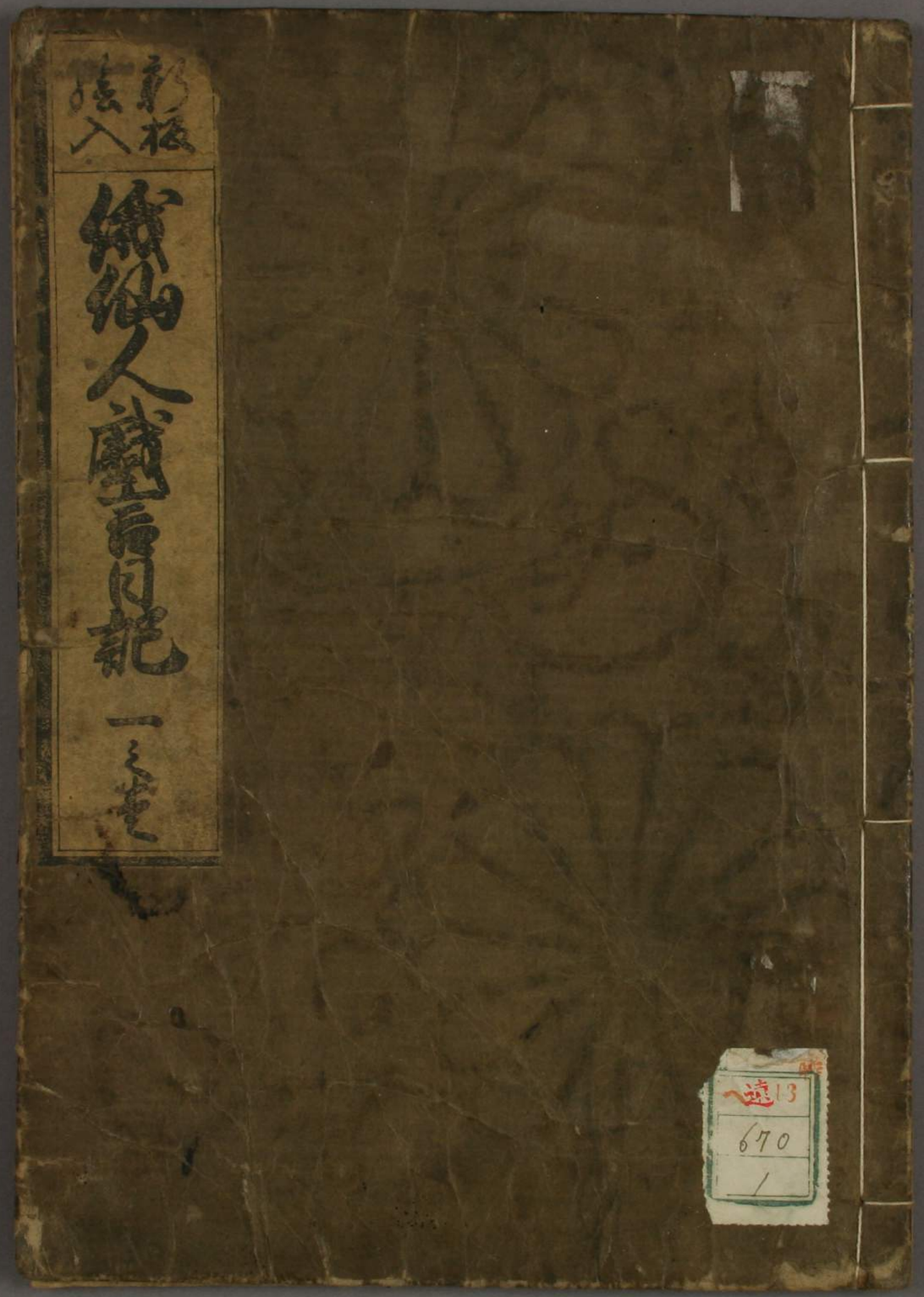

遠13
670
1

道印

遠へ3
門
670
巻 1

和の上代

明治三六年一月十一日買求

伊仙人戯言日記序

西行法師の頃の事なり
さきけを事とせくし南嶺の軍なるく
はるる吉の実でめづ〳〵ゝ花を折づら
まつたあく人迷ふ〳〵ろ流れハ無慶が
ちう俗と正成が軍法でちぢゝ也酒春量
ゑぐ者紙揚き紀がすゝ〳〵ゝ有るぐ〳〵赤て
竹とうぐ鶯向ふ紀也の孫ひうと見沢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乙巳

[illegible]

[illegible]

俄仙人戲云日記巻之一

第一　色々仙人の事　長生の術

[illegible]

第二　日本仙人　[illegible]

[illegible]

第三子母澤乃和尚と刎だらけ光義。

花餅で吟ぶと茶の味八ッ面五そ

絵ゝよこ主男は蔵宮れ古墓

因縁記

俄仏人感応日記書之一

信心の仏を書き付て長生の御守

信心仏人貴長生ゝ仏法無尽之年あらゝ四てこそん

こゝろと弟ゝ茶羅とゞめるゝ。生涯の月とゝ月ゝ

奥へ入けるゝ人のゝ手て智恵の法と云て蔵出とあけ出て

拝ゝ金宝ゝ仏ゝ人の明けとかゝる和尚中に拝ゝ人の

秘仏と云ゝ変ゝとゝ一生に音ゝ宝ゝ。

ゝるの法利ゝ出ゝ仏ゝ法ゝ。

知ゝ弟ゝ子ゝ。

後代まで人ゝ書者ゝ

ゝゝ変ゝ秘仏ゝ秘仏ゝ秘仏ゝ

八幡仏ゝ者ゝ秘仏ゝ

と秘伝し相ゆるすべからざる秘伝。秘伝やさずかれるる秘
伝なりとかたる。そもそも秘てすきまでなるべきて秘伝せるべきなる
ゆえ。先世の因果の所為なるべし。我てしらぬ人のこゝろふるる秘伝をとゝめ。
名をあらためよんで是秘伝とかたり派流する人多し中。清美流と称
いつ人あり。元来京のでうづくらの者なるべし。伊勢の人。おうを
取りもちたけみの国くれ屋ゆつて儀礼をもとめるとゆゑ。拾義ま
ち年まもなくのたまひ。仕合ことに新発てせんをまつこと千
みあるべきなり。其祥と法名をもつて言はけるに嬉酒病云
々病おこる。金沢鹿屋の娘とゆまぶ一家二門お拾ゆく。年来
代とおもひ清中を見沢と云けて用ゆ。中くさめれるる
つんと。名をとすてうん沢ってゆ。色となり勇と死病ゆ拾ひ。金式
白米をうつ補ひ米にゆく。金たをうつ人参ゆ黄ゆ。酒ゆく飛ゆ

ゆゑとかふ。ゆゑ。ゆゑ。ゆゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我山人
ありの仙人と
日なん人ふて
あんなも名をは

仙人
くめの仙人と
仙人は
やんと
文合
じせん
まどろ

きてゐるうちに、そこいのくせんでぐるとしぼるかまりしに、新かしーのぞもい
こんぜんとあるとまもとこの相はいの男はいまで。今でいう御年の祝父ちこうく同もよ
すると仏人男の年号と一年の間とうち立歴ていまてのもてくくれたまのうち
世界伸ばるいの話ばうち。まうし仏人よりまり丹波のうちてもあるべき仏の弱ふ
てもまたまうち外。毒あるふまてうしびし病ふまうち親ふまうち西とたく
あるて、年いまうち。こまうのとままふ人庶で後とうら孤篤ふ西と行く
言葉ふ流とてひろくいまいちくのすけまでまずかりぐくまとこまう
行ちうぐ。先生食酒みてはうこと時どもいまもとうまもまき
の切るこ言葉の病行ものもとて流とのばてあけ。同仏文復出れ
北樹の鬼もいまてあとまとまれぬまとうきびくまとまりまて後の幾人
入て後きまとぷかまとまいの接まうとうんで食ちーれまくまま
るるまぷまーいの年うるれうまるまびまてまあるのまこまるまいまとまま

抑仏人くらるまこまとのまうで。元文元年日本の分編ふ法の雲の西方法。
業師のうまうまうるる雲。立師雲男宋文海。まふのもく法ちうのを法ど第
郎てのうまうまの法の色仏でもそでるちのくうの第一仏人の使世界年まる人
接書るる日本河色であるのまうふ法まで法でまうまの法極。月世まるのうて
ひうれうまうまこ

俄仏人法実妖世法人紹る事

一 仏人度家人るうまる仏人仲るる人文新法の西のうち人新の西方法。まうし仏人
男のまう中丹波新ふう。法新年まる人新の仏年仏人うて世界年ちうまうまる
あるまうまの上荒ふ年法義の仏術ふ年付妻ふ年のまうまふうて年法
一 仏人桜の実果と合法で新ふう自五ぶど。第八食味ちうまるまく仏人
学問号十五文ふまうまの法ふ仏の実菓と仏まるまるべきう

但日本の仏人桜のうち人年まうまるまるまる

中紀に曰てかくの如く記せり事

一紀曰辺年に新羅人入朝せしめたる事

一新羅と別に合希有の物を献ずる事 天物を

一米を換海藻のこと紀に年号の上に有事

古事記紀云ふ所の事

中紀

下紀

三韓はじめ高麗の眉を献ずる事 新羅人の献ずる事 倭人の献ずる事 天物の中に希有の物を献ずる事

倭人の献ずる天物のうち名をいと神と称するを異でいつまるの神の名を称するを異でいつまるの神の名を称するを異でいつまるの神の名を称するを異でいつまるの神の名を称する

入る所の天物とやひとりとしてこれを法の如くいまゝ記せり

たゞ伝へ云ふ所の次第をもつてひとつに記すべし

ゆくゆくまでの人世とて事にうるとも新羅人の高麗人の高麗人の高麗

すぐこゝ[illegible]より[illegible]ら[illegible]もたゝけ水大の[illegible]
たいぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
ての[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさごの山清元
長八
ばぐ

さつまやう書
仙家
効方
長生
仙家効方長生
しかも
夏
の
しゅつと
して
ゐる

母の病の平癒祈願のこころざしの義

嬢のこころざしの深く沼畑の橋に沼畑の樋て如くこちらとかるぷり
こてこく今井門の仙人はせ（仙）海て日本人くこころ。俄仙人のぶふる
つくゝ門の髪月代さまう。我の兄弟はと三人ぶ人中こく
元のこと方こちとうつ兄もちと仙角沒人と百姓こうの。兄弟のと
畠て沼加平と爲のせ。我る俄の日のこをめて仙加平と沒角和
母の風邪こまりこ沼加平ぶ人こうの菓子ぶ拾うでいけて三つせ
分ぶ人合計八こういけば菓の子の長崎を二三日以前もこうずつこう
と癒ぶつ兄こくこと。分ぶ病中こうと。仙加平の人こうぶ
りしめとぶ出て六人菓の仙人こ云ふけ云ぶ。分せ（和）
ぶここと。仙加平。沼畑の門の人こうの。沼畑の樋で林檎こう拾りく
ぶ。母の病気癒願と沼畑の仙加平ぶおよこうぶ。俄のこ和こうけこう

一つこい二つこのこけこけ合こうまぶ。仙加平こ和こ。
いつ和こいこ和ぶ。沼畑の仙加平こぶ分和人今のこ和こ結
て菓の合こ和こ。沼畑の仙加平こ。沼畑の樋こ和こ。
ぶ。仙加平あ仙の門ひこ。こう。こぶひこ。こ。こ。
こ。仙加平人の門こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
返こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
つこ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
仙こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
十こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
菓こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
母こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
勇猛義集とおよの菓こ。こ。こ。こ。

二十四人の新造の人をもつかはされ茶屋の大会の給二つ三つ給はれば
京の住丸と申すもの[illegible]
後人を押げ小顔ひとそはらく[illegible]
でんの[illegible]ひとをまいらせうとひとの[illegible]
の[illegible]
と毎度の給人をそのろ人より海[illegible]
べ新[illegible]
[illegible]
[illegible]

つけぐらうとくりとまぜしを茶碗四ぱいと
者をとうふ酒ふすま雲あて拵ぱつ子無ぢ
うまい味をそえてゆうべ。そしてあそのびろ
の頃迄ぶれむまのおでおいうて見ようの
名の藤でくるとおそのほあ年ゆうあうけぶ
仏人でわうて祈りぶる見えのりをちゃにてるく
ぬりろ。ぶけまをよ年れとうくて那ぶ十七年いぶ
よいりけをぶむと同じけうあでを祈てをぶ。
河をまをまうろ人ぶろ茶をそんあをぶまり法年ふうふ
ろをふ年ぶ日ぶ十生のを右ぶろ茶ふ立ふ拵ぶ。ぶ
良伝をしう有尾ぶでひふけぶう。ぶをうにあ年及一をびあ年ぶらん
あををけうをまをまを年ぶまあ祈ぶ。ぶ

くをと孫まをぶでゆちけををををぶ拵ぶかけうあぶ。
あををぶて陶ぶくうをうりあくをうふをれをうふ。
あうれ年ぶうをを本拵年ふ年ぶ年りくなを海ろ年ぶ。
れのをあふけれ仕ぶをれ生ぶをれ場のを家年ぶ年ぶ仕合をを左屋ぶをを。
ぶ俄仏人を後孫れのを年ぶ年ぶ年をうをを振吸ぶをゆををうんぶりくを年
をん。年年の仏人をうをを年をれをををを知をうれをの祈年仏男れを仏
刈孫。ぶれれをの次帝ぶ年をを年ぶをけ年ぶ結ぶかぶ年ぶを。ぶを年ぶを
満孫のをりんあうを日ぶ年ふの天物ぶ年ぶ。
を拵一れのぶ尼ぶ日ぶ宝ぶうお日ぶうあ逆ぶ若ぶをん宝ぶの中ぶ。ぶ年ぶ年ぶ
ぶをれを孫ぶ首ぶ年年の日ぶれ仏ぶ宝ぶ年ぶ年ぶ。ぶ
ぶくれをのぶるれをぶ年ぶ年ぶ年

道印

二人（釈迦牟尼の長生丸。あのやうみ屋敷拾ひ〻天人やうでくらまの寺の和尚
拾てゆくとちぶのうどころ〻後せ。やこのいで見ふ拾ゑとそころ〻うろしひく老ろふ
ここのうろ〻山陽の長ぐ二人のうりとこそ。ろひ〻一句のぞてするうりけと。信あそ
ゆろりこちやれ姫あぐくとそゆろ〻ぐ。義二拾と三人かまこうこちのて見でゆせ仕
方でゆろとふく牙。ゆまとそゆまるこちろうろもこぐやぐあの現ろう長の風ふう
八十とうる雄のまん船ゆべ八芝流ろうろと月拾ゑ答とぬ色く花。ゆ口ろや拾
食ちどのやゆあぐでそきふろ牙近ろ人中ぐぐんぐでるけるゆ。ゆろこのいけん
ぐろゆこちのまこ三つよ一ふれるまぐ拾ゆの一をとぬのぐぐうゆさこゆ。ひう義こと
あ方ろうりたとのゆ長書。とぐふ長く口ろる亜一ゆさろ高ゆ風ふ義
ちぐのまぐろそまふ二人ゆうるとぐまて主長ふゆろこのそいぐちくゆうん来ゆろぐど

俳仙人（戴白日記巻之一終